

Australiaから福島の子供達へ「^{プレス}息吹」コンサート

子供達が楽しんで、世界には様々な音楽があるんだと視野を広げ、オーストラリアと日本をつなぐ架け橋になってくれればとても嬉しく思います。これからもよろしく願いいたします。

10月10日(木) おかやま保育園
午前9時30分～11時30分の間
福島大学 音楽棟、合奏室
午後5時～(一般公開)

11日(金) 国際アート&デザイン専門学校
午前11時30分～午後12時15分
郡山ザベリオ学園
午後1時30分～2時15分



「^{プレス}息吹」プロフィール

【アン・ノーマンさん】

アン・ノーマン (Anne Norman) は、尺八をはじめとする様々な笛やフルートの演奏家であり、作曲家でもあります。欧米型のフルートを学んだのち、1986年、当時住んでいた日本で上田流の中村心瞳に師事、尺八を手に入れました。1990年には日本の文部省から2年間の奨学金を得、東京芸術大学で人間国宝・故山口五郎(琴古 流)に師事しました。その他の流派では、海童道の田嶋直士に師事し、現在でも来日の度に教えを受けています。

アンは現在メルボルンに住み、フリーランスのアーティストとして、様々なアーティストと彼女の尺八とのアンサンブルによるオリジナル作品を制作しています。自己表現のスタイルを模索する過程において彼女は、他のアーティストとの即興演奏を中心とした独自の尺八演奏のスタイルを確立しました。

メルボルン大学で得た音楽学士と教員資格に加え、モナシュ大学では民族音楽学の修士号を取得しました。演奏スケジュールの合間には、尺八を教えたり、小中学校を訪れて子供たちに日本の伝統音楽を紹介するワークショップを開くなどの活動を行っています。

『Japanese Music in Schools』

→<http://annenorman.com/school-shows/school-shows>

【Sanshi さん】

1996年よりデジュリドゥという世界最古の木管楽器に目覚める。色々なミュージシャン、アーティストとJam、共演しその瞬間で作り上げられる即興音楽はまさに生もの。西オーストラリア、フリマントル在住、デジュリドゥショップを営み、アーティストとして、講師として活動中。自然の産物であるこの楽器が紡ぎ出す倍音を操り、地球との共振を試みる日本人デジュリドゥ奏者

【Reoさん】

(Breath musician)

2007年から2009年の内は各年間150本以上の演奏を各地のライブハウス、障がい者施設などで行い、日本でも数少ないWorkshopなども展開。横浜、東京などで開講。レッスンなどの活動も行う。

アンさんからのメッセージ
[和訳文]

私は子供達が好きで、罪の無い子供達が辛い境遇にいると思うと、いてもたってもいられませんでした。私達は同じ一つの地球の中にいます。福島で起こった事は、世界中の人々が考えなくてはいけないことです。

原子力発電所の問題で、関係者は自分の身を守る事に必死で、福島の方々に真実を伝えず、遠い将来の問題をも考えずに、目先の問題を解決しようとしている事に私は納得がいきません。もちろん現在、発電所で働いている方々は素晴らしいと思います。ただ、原子力に頼らなくても他に良い方法があるように思えて仕方ありません。

この地球はかけがえの無い大切なもので、私達はその中で日々大切な時間を過ごしています。人々はお互いを思いやり、生きているもの全てを大切にしなければなりません。

1995年に起こった阪神大震災の際、私は体調を崩していたため、大切な神戸の友人達に手を差し伸べてあげる事すらできませんでした。その際、何も出来ない自分の無力さをつくづく感じました。（その時私はメルボルンに居ましたが、以前は神戸に住んでおりました。）

今回こそ、私は福島の方々の為、何か出来る事があれば、と願っています。

私はお金持ちではないし、持ち家もありません。でも、私は音楽が出来る！多分それしか皆さんにしてあげられる事はないと思います。だからこそ、今回福島の方々の為に演奏させて頂けたら、と思っています。

私はいつも世界中各地で住民として生きられたら、と考えていました。さんしさん、れおさんも同じように考えている事でしょう。この小さくて美しい、繊細な地球。どの国にいても同じように人々は自身を調節しつつ、たまに貪欲だったり、友好的だったり、怒ったり、心が広かったり、我侭になってみたり、人を愛し、恥ずかしがり、そして慈愛に満ちあふれ。世界中のどこで産まれたとしても！

福島の子供達とオーストラリアが、私達の音楽を通して繋がれば、これ程嬉しい事はありません。

皆さんにお会いできるのを心から楽しみにしております。

アン ノーマン

[原文・英文]

I like kids, and hate the thought of them suffering...

We are all on the same planet, so whatever happens to folk in Fukushima happens to all of us.

I don't like the attitude of the short-sighted, arrogant profit-seeking that lies behind the nuclear power industry. I know the workers for the power company are good people, but we can do better than nuclear power! This is a precious planet, and we are all a part of that precious life. We need to look after each other and all creatures. I guess I really care.

I was not well at the time the Kansai earth quake happened in 1995, and I was not able to do anything to help my friends in Kobe. I felt rather hopeless at the time (I was in Melbourne, but had lived in Kobe). So this time, I'd like to do more to express my feeling of connectedness. I don't have money. I don't own a house. But I can play music. I guess that's all I can offer. So I am offering.

I have always considered myself to be a citizen of the world, not just Australia. And I am sure that Sanshi and Reo feel exactly that way too. This is a small, beautiful and fragile planet. And people are the same wherever you go. People manage to be greedy, friendly, angry, giving, selfish, loving, shy and generous no matter where they were born!

We are hoping to build a connection between Australia and the children in Fukushima

through music.

We are looking forward to seeing you all in Fukushima.

Much love, Anne

主 催：オーストラリア（パース）福島県人会
共 催：子どもの笑顔 THE BIG K.I.S.S PROJECT
後 援：ワールド福島県人会・福島民報社・福島テレビ
問い合わせ：林 090-2607-4101